

社会福祉法人杉樹会 令和元年度 事業報告書

目 次

令和元年度 事業報告

重点事項総括／行事・会議等開催状況

社会福祉法人杉樹会 本部	1
特別養護老人ホーム さんじゅ阿佐谷	7
特別養護老人ホーム さんじゅ久我山	10
居宅介護支援事業所 さんじゅ久我山	13
杉並区地域包括支援センター ケア 24 久我山	15

各種データ報告

各施設の状況：施設利用率状況	18
在籍利用者の状況	19
事故・ヒヤリハット	20
ボランティア・実習などの受け入れ	22
生活支援事業サポートさんじゅ実施状況	23
法人職員の状況：勤務状況	24
研修参加状況	26
収支計算書(決算報告書)作成にあたり	28

令和元年度 事業報告

社会福祉法人杉樹会 本部

【重点事項の総括】

(文責：法人本部長 中田あかね)

法人設立 25 周年を控え、内部の運営体制の充実、施設のハード面の改善、地域との関わりの強化など、ソフト・ハード両面または内外両面の強化、充実を進めていく重要性を意識する年度となりました。

一方で、秋の大型台風や年度末近くの新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、予定していた行事や研修、会議が開催出来ないなどの事象が発生したものの、いずれも「災害対策」「感染症対策」により大過なく推移することが出来ており、職員各位の取り組みを評価するとともに、日頃の意識と準備の大切さを改めて実感することとなりました。

重点事項として推進したものの報告は以下の通りです。

1. 両施設の改修・修繕および設備更新の着実な推進と運営面の改革

修繕計画に沿って、「修繕・設備更新の基本方針」に示したように、単に「壊れたから直す」「古いかから新しくする」のではなく、未来に向けた“意味”や“意義”を確認しながら進める。

①さんじゅ阿佐谷、さんじゅ久我山に『温冷配膳車』を導入し、給食サービスの向上を実現

- ・温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという「適時適温」の提供
- ・厨房業務の効率化（1 名少ない人数でも対応可能、を実現）

②さんじゅ阿佐谷、さんじゅ久我山において、『ナースコール設備の更新』を実施

- ・ナースコール設備一式を両拠点同時に、同機種に更新（従来は別メーカー品）
- ・『眠りスキャン』による睡眠時の状態把握が可能に
- ・『見守りカメラ』による室内状況の把握が可能に
- ・介護記録システムとすべて連動することにより記録業務効率化
- ・東京都の「ICT 活用促進事業」の補助金獲得
- ・データ記録や状況把握が大幅に効率化されることによる業務改善を実現

③さんじゅ久我山で大規模設備改修を実施

- ・ガスによる熱源供給の GHP から電気による EHP への転換により光熱費の削減を実現
- ・全館で照明 LED 化
- ・全館で空調機器更新、加湿機能を付加し、大幅な環境改善を実現
- ・「エネルギー使用合理化支援事業」の補助金獲得

④さんじゅ久我山で機械警備導入、さんじゅ阿佐谷、さんじゅ久我山にて防犯カメラ導入

- ・久我山の有人警備を機械警備に変更
- ・両施設で防犯カメラ設置

2. 各部門の運営の質の向上《根拠ある仕事、付加価値ある仕事、不適切をなくす、組織力強化》

①『業務改善計画 2019』の推進

- ・全部署において「改善項目」を抽出し、内容の大小にかかわらず“出来ることから実行、実現”を進め、1 月 30 日および 3 月 31 日現在で各拠点、部門からの実施状況、報告をとりまとめて発表。引き続き改善への取り組み継続中。

②『職務分掌』の作成

- ・各職種の職員ヒアリングを実施の上、職種ごとの「職務分掌」を整理し、特別養護老人ホームにおける『職員職務分掌』として取りまとめる

③本部事務局の業務の見直し

- ・本部機能を強化し、拠点の事務担当との業務分担を整理

④事業部業務の強化

- ・配食サービスのリニューアル準備：メニュー変更、容器や構成を変更するための検討、準備（2年度6月より実施予定）
- ・福祉有償運送サービスの強化：運転協力員増員をはかり、対応力を向上

3. 働き方改革《研修制度、休暇、会議のあり方》

①Web 会議を導入した委員会運営

②有給休暇の取得率向上

③両拠点におけるリフレッシュ休暇の実現

【行事・会議等開催状況】

時 期		会 議	行事・研修・その他
平成 31年 ／ 令和 元年	4月	運営会議(10日)／研修推進委員会(11日)／オレンジミーティング(16日)／労働衛生委員会(18日)／運営委員会(25日)	発令式・職員表彰(1日)
	5月	理事会(13日)／監事監査(27日) リスクマネジメント委員会(10日)／広報委員会(16日)／ロボットミーティング(21日)／運営委員会(30日)	春季健康診断(職員) ハローワーク 合同採用説明会(31日)
	6月	理事会(10日)・評議員会(25日) 食事サービス委員会(13日)／オレンジミーティング(18日)／運営委員会(27日)	常勤職員人事考課(賞与評定) 専門学校(読売理工)就職説明会(4日)
	7月	理事会(1日) リスクマネジメント委員会(12日)／労働衛生委員会(18日)／運営委員会(25日)	夏季賞与支給(12日) インターンシップ説明会(14日)
	8月	運営会議(5日)／広報委員会、研修推進委員会(8日)／オレンジミーティング(20日)／運営委員会(29日)	
	9月	理事会(9日) リスクマネジメント委員会(13日)／運営委員会(26日)	有期雇用契約職員契約更新 普通救命講習(19.20日)：参加12名 アクティブ福祉 in TOKYO(30日)
	10月	食事サービス委員会(10日)／オレンジミーティング(15日)／労働衛生委員会(17日)／運営委員会(31日)	杉並区就職説明会(19日) 家族介護教室(30日)
	11月	理事会(11日)、評議員会(11日) 研修推進委員会(5日)／リスクマネジメント委員会(8日)／運営会議(18日)／広報委員会(21日)	秋季健康診断(指定職員) インフルエンザ予防接種 常勤職員人事考課(賞与評定) 普通救命講習(25日)：参加4名 家族介護教室(27日)
	12月	理事会(2日) 運営会議(2日)／オレンジミーティング(9日)／研修推進委員会(12日)／運営委員会(9日、26日)	冬季賞与支給(13日)
令和 2年	1月	第三者委員会(17日) リスクマネジメント委員会(10日)／労働衛生委員会(16日)／運営会議(17日)／運営委員会(30日)	
	2月	理事会(3日) オレンジミーティング(13日)／広報委員会(20日)	
	3月	理事会(9日)／評議員会(9日) 運営委員会(19日)／運営会議(25日)	

委員会委員一覧 令和元年度(2019年4月1日～2020年3月31日) ※年度末在籍者のみ記載

研修推進委員会				
①大久保憲和	委員長	さんじゅ久我山	施設長	●委員会開催日 ①4/11 さんじゅ久我山 ②8/8 WEB 会議 ③11/5 タウンゼン会議室 ④12/12 WEB 会議
②南方 恵		本部事務局	事務・副主任	
③赤塔 良		さんじゅ久我山	介護	
④伊藤隆史		さんじゅ久我山	介護	
⑤尾崎 恵		さんじゅ阿佐谷	介護・副主任	
⑥坂本皇治		さんじゅ阿佐谷	介護	
⑦野村祐子		ケア 24 久我山	主任介護支援専門員	
主な実績				
・ 全体研修会および研修報告発表会(中止)の企画・実施（オレンジミーティング、リスクマネジメント委員会と合同企画で開催）				
・ 普通救命講習会の企画・実施				
労働衛生委員会				
①田中則和	委員長	さんじゅ阿佐谷	施設長	●委員会開催日・場所 ①4/18 さんじゅ阿佐谷 ②7/18 WEB 会議 ③10/17 WEB 会議 ④1/16 さんじゅ阿佐谷 （産業医出席）
②市川友貴子	副委員長	さんじゅ久我山	サービス課長	
③伊藤祐子		さんじゅ久我山	看護師・衛生管理者	
④山根法義		さんじゅ阿佐谷	介護・衛生管理者	
⑤公文青子		ケア 24 久我山	看護師	
⑥井ノ口さくら		さんじゅ阿佐谷	看護師	
⑦南方 恵		本部事務局	事務・副主任	
主な実績				
・ ストレスチェックの実施及び職員アンケート（労働衛生、腰痛対策） ※健康診断結果と併せ、後日産業医から講評				
・ 敷地内禁煙の検討				
・ 衛生管理者による職場巡視				
・ 職員交流会の企画・実施（中止）				
広報委員会				
①渡邊秀美	委員長	さんじゅ久我山	介護・副主任	●委員会開催日・場所 ①5/6 さんじゅ阿佐谷 ②8/8 さんじゅ久我山 ③11/21 さんじゅ阿佐谷 ④2/20 WEB 会議
②南方 恵		本部事務局	事務・副主任	
③杉本稚英		本部事務局	事務	
④小澤奈美		さんじゅ阿佐谷	介護	
⑤奥間光秀		さんじゅ阿佐谷	介護	
⑥柴田麻子		さんじゅ久我山	介護	
主な実績				
・ 年4回の社内報発行、接遇マナーに関する啓発（標語ポスター周知）				
・ ホームページ更新の検討				

食事サービス委員会				
① 麦田圭子	委員長	さんじゅ久我山	管理栄養士	●委員会開催日・場所 ①6/13 さんじゅ阿佐谷 ②10/10 さんじゅ阿佐谷 ③2/13 さんじゅ阿佐谷
② 茂原明穂	副委員長	さんじゅ阿佐谷	管理栄養士	
③ 大野康太		さんじゅ阿佐谷	調理師・主任	
④ 伊藤明正		さんじゅ久我山	調理師・主任	
⑤ 松浦敏美		さんじゅ久我山	介護	
⑥ 永井一樹		さんじゅ阿佐谷	介護	
⑦ 長弓弥子		さんじゅ阿佐谷	生活相談員	
⑧ 内田裕隆		本部事業部		
⑨ 杉本稚英		本部事務局		
主な実績				
・ 地域向け試食会の企画（次年度実施予定） ・ 災害時非常食の対応についての協議、検討				
リスクマネジメント委員会				
① 沼知 豊	委員長	さんじゅ阿佐谷	介護・主任	●委員会開催日・場所 ①5/10 さんじゅ久我山 ②7/12 さんじゅ久我山 ③9/13 WEB 会議 ④11/8 WEB 会議 ⑤1/10 WEB 会議
② 長谷川幸子	副委員長	さんじゅ久我山	介護	
③ 田中則和		さんじゅ阿佐谷	施設長	
④ 原田圭輔		さんじゅ阿佐谷	介護支援専門員	
⑤ 山崎修一		さんじゅ久我山	生活相談員・副施設長	
⑥ 箱田藍子		さんじゅ久我山	介護支援専門員	
⑦ 建神智美		ケア 24 久我山	センター長・副主任	
⑧ 星 智子		居宅介護支援事業所	ケアマネ・副主任	
⑨ 中野優子		本部事務局	事務・副主任	
⑩ 前田真由美		本部事務局	事務・副主任	
主な実績				
・ 危機管理対応についての検討（施設内緊急コールの運用等）、リスクマップの作成 ・ 災害対策、防災訓練、BCP の見直し等 ・ KYT(危険予知トレーニング)研修の企画、実施				
運営委員会				
① 中田あかね	委員長	本部	本部長・常務理事	●委員会開催日・場所 最終木曜、さんじゅ阿佐谷 ①4/25 ②5/30 ③6/27 ④7/25 ⑤8/29 ⑥9/26 ⑦10/31 ⑧12/9 ⑨12/26 ⑩1/30 ⑪3/19
② 田中則和	副委員長	さんじゅ阿佐谷	施設長	
③ 大久保憲和		さんじゅ久我山	施設長	
④ 山崎修一		さんじゅ久我山	副施設長	
⑤ 麦田圭子		栄養課	課長	
⑥ 南方 恵		本部事務局	副主任	
⑦ 前田真由美		本部事務局	副主任・会計責任者	
⑧ 本田怜士		さんじゅ阿佐谷	サービス課長	
⑨ 市川友貴子		さんじゅ久我山	サービス課長	
主な実績				
・ 施設および法人運営に関する検討・整備 ・ 法人設立 25 周年実行委員会を兼ねる				

【テーマ別会議】

オレンジミーティング				
①公文青子	リーダー	ケア 24 久我山	看護師	●開催日・場所 ①6/19 さんじゅ阿佐谷 ②8/28 さんじゅ久我山 ③10/16 さんじゅ阿佐谷 ④12/18 さんじゅ久我山 ⑤2/19 さんじゅ阿佐谷
②尾崎 恵		さんじゅ阿佐谷	介護・副主任	
③杉本久美子		さんじゅ久我山	介護	
④長弓弥子		さんじゅ阿佐谷	生活相談員	
⑤塩田 聡		さんじゅ久我山	介護	
⑥箱田藍子		さんじゅ久我山	介護支援専門員	
主な実績				
・各部署での事例および認知症対応、他職員への伝達についての検討、実施				
・基礎知識に関する勉強会、訓練				
ロボットミーティング				
①山崎修一	リーダー	さんじゅ久我山	生活相談員	●開催日・場所 ①5/21 さんじゅ阿佐谷
②柏木望美		さんじゅ阿佐谷	介護・副主任	
③渡邊秀美		さんじゅ久我山	介護・副主任	
④中島 愛実		さんじゅ久我山	機能訓練指導員	
⑤川人 貴広		さんじゅ阿佐谷	機能訓練指導員	
⑥土井みどり		さんじゅ阿佐谷	看護師	
⑥下坂総太郎		さんじゅ阿佐谷	介護	
⑦田中則和		さんじゅ阿佐谷	施設長	
⑦杉本稚英		本部事務局	事務	
⑧南方 恵		本部事務局	事務	
主な実績				
・介護ロボット導入に関する検討				
・コミュニケーションロボットのデモンストレーション実施				

特別養護老人ホーム さんじゅ阿佐谷

【重点事項の総括】

(文責：施設長 田中則和)

ご利用者が、安心して利用できるサービスを提供するためには、私たちにできること、求められていることは何かを考えながら取り組み、施設サービスの土壌を強化するために、職員一人ひとりが連携しながら、実践していきました。

また、私たちの役割は、施設内だけに留まるわけではなく、地域において求められる存在にならないといけません。施設全体で、地域へ目を向ける視点を持ち、地域に認知してもらうために、地域の皆様との交流を図っていく必要があるため、皆が考え意見を出し合い取り組みました。

これからの新たな時代に向け、時代の変化とともに求められる施設のあり方を考え、より良い施設になり続けていくように、今後も施設の運営に取り組んでまいります。

掲げた重点目標を達成するために、事業計画として掲げた項目とその取り組み状況は以下の通りです。

1. ご利用者様満足度を高める

- ①ナースコール機器の更新工事を行いました。これは、単に機器の更新をするだけではなく、職員の業務効率向上、業務省力化を図り、その得られた効果をサービスへ還元することを前提としたものです。期待される効果は、(a)ナースコールと介護記録が連動するため、より仔細な様子を効率よく記録できる、(b)スマートフォンの活用により、より迅速な利用者の応対ができる、(c)非装着型睡眠計を活用し、体動検知による各利用者の睡眠状況を確認し、生活状況に合わせたケアの実践ができる、(d)異変を検知すると起動する見守りカメラの導入により、事故防止や事故対策の強化につながるなどです。令和2年1月に工事を終え、導入の機器を最大限に活用するため、令和2年度より、専任担当を設け利用者サービスをより充実していく取り組みを計画中です。
- ②温冷配膳車を9月より導入しました。収納、配膳、下膳などのオペレーションを確立し、サービス提供しています。より一層の適時適温での食事サービスが提供できるようになり、利用者様の食事満足度が向上しました。また、新たな食形態として、見た目にも美味しく、より咀嚼・嚥下に配慮した【ソフト食】や【ゼリー食】【軟飯】を導入し、安心して食べることができる食事内容を充実させました。
- ③アクティビティ活動を充実させるため、新たに機能訓練指導員による各フロアで実施する集団体操を取り入れました。

2. 地域との協働と社会貢献

新たな取り組みをしました

- ①当施設を『知ってもらう、寄ってもらう、サービスを発信する』ことを目的とした、施設見学会を10月19日に開催しました。19名が来訪されました。初めて来訪される方が多く、見学会がきっかけとなり、地域住民向けの体操講座への参加に結びつきました。地域の方々とのつながりのきっかけ作りになりました。
- ②令和1年6月から「杉並ふれジョブの会」より、障がいを持った学生の「しごと体験」活動の受け入れを開始しました。主な活動内容は、全館の手すり拭き掃除でしたが、ボランティア活動者との交流もつくりました。週に1度の活動でしたが、学生は充実した半年間を体験することができました。

転倒・めまい予防のための「さんじゅ体操」、介護のコツがみつかる「家族介護教室」実施

- ①機能訓練指導員が講師となり「めまい予防、下肢筋力低下予防」をテーマにした「さんじゅ体操」を開催しました。前年度以上に、内容の充実と、複数回実施したことで、地域の皆様への認知度

アップに、一步踏み込むことができました。開催状況については、以下の通りです。

7月31日：阿佐谷地域住民10名参加／11月6日：区内在住者等15名参加

(令和2年3月31日：中止)

- ②杉並区から委託を受けた「家族介護教室」を開催しました。杉並区の履行評価では、実施報告内容や参加者からのアンケート結果から満足度が確認されたため、高評価を受けました。開催状況については、以下の通りです。

10月30日：当施設の介護職員による「基本的な移乗介助」6名参加

11月27日：外部より講師を招き「正しいオムツ・パットの使い方」10名参加

これからも近隣の皆様のニーズに応えるべく、各分野の専門職の力を発揮して計画・実施します。また子ども～シニア世代の方々と関わる機会をつくり、風通しの良い環境や入居生活がより楽しくなるように取り組みます。

3. ご利用者様本位のサービス向上

- ①利用者にとっての良き支援者になるため、不適切ケアの防止について、委員会を通し施設全体で取り組みました。権利擁護・虐待防止や、認知症ケアのロールプレイ演習、利用者体験などをテーマにした内部研修や接遇マナーシートを活用し、各自がセルフチェックを実施しました。声のかけ方、関わり方を振り返り、不適切だと認められるケアを体験しました。これからも本当にご満足いただけるサービスを提供する取り組みを継続していきます。
- ②事故やヒヤリハットの分析を強化しました。毎月、ヒヤリハットの集計を行い、ミーティングにて分析結果を共有しました。利用者本人がしたいことと職員が危険だと感じることは、表裏一体である場合もあり、利用者が望むことを尊重し、職員が実践する個別ケアの見直しをしました。また、全利用者を対象にしたリスク分析を実施し、リスクの可視化を図り、新人職員、ベテラン職員ともに、職員間の共通認識を高めました。

4. 専門職の連携や力を活かした職場づくり

施設サービスの向上を目指すため、各専門職種が連携・協働した取り組みを行いました

- ①食中毒研修（管理栄養士企画）、感染症対応研修（介護職員と看護職員企画）、ポジショニング研修（機能訓練指導員企画）を実施しました。職員は各研修に幅広く出席しました。
- ②監督職のミーティングを定期開催しました。意思疎通や情報共有が以前よりも格段に良好になり組織体制の強化につながったこと、多職種間のサービス連携強化にもつながるものになりました。

介護職員による「チーム会」活動が活性化し、サービス向上につながりました

- ①介護職員が2チームにわかれ、チーム毎に研究テーマを定め、知識を深め、技術を高める取り組みをしました。研究テーマは『ポジショニング』『認知症ケア・ユマニチュードの実践』研究結果については、2年度に発表する予定です。

5. 働き方環境の土壌強化

- ①計画的に連休を取得できるようにリフレッシュ休暇の計画をつくり実行しました。計画通りに休暇を取得することができ、職場内の評価も高いです。今後も職場体制を確立させていきます。
- ②特に介護職員が抱える腰痛について、予防対策を実施しました。移乗介助時は、介助を補助するスライディングボードを活用するため、使用方法の講習を実施し、技術を共有したこと、腰痛対策の冊子をつくり、職場内で普及しました。

【行事・会議等開催状況】

時 期		施設行事 (利用者に関するもの)	内部行事（職員主体） 《会議・研修・訓練等》
平成31年／令和元年	4月	お花見会（4日） 利用者・家族懇談会(14日)	褥瘡対策委員会(9日)
	5月	外食会（16日）	終末ケア会議（14日） 身体拘束廃止委員会（14日）
	6月	新緑見物（9日）	感染症対策委員会(11日) 給食会議（5日） 入所検討委員会(19日)
	7月	七夕会（4日）	事故防止・安全委員会（16日） 終末ケア検討委員会（16日）
	8月	阿佐ヶ谷七夕祭り見学 （3～7日）	身体拘束廃止委員会（13日） 入所検討委員会(15日)
	9月	納涼祭+敬老会（8日）	感染症対策委員会(10日) 入所検討委員会(18日)
	10月	作品展（18～24日）	褥瘡対策委員会（8日） 入所検討委員会(8日、23日) 給食会議(2日) ※福祉サービス第三者評価訪問調査受審(17日、契約6月、結果報告12月10日)
	11月	映画上映会（6日）	感染症対策委員会（12日） 身体拘束廃止委員会（12日）
令和2年	12月	クリスマス会(22日)	事故防止・安全対策委員会（10日） 身体拘束廃止委員会（10日） 給食会議(4日) 入所検討委員会(10日)
	1月	新年を祝う会（1日） 初詣（9日）	褥瘡対策委員会(14日) 入所検討委員会(14日、30日)
	2月	節分（5日） ひな祭り週間(27日～)	事故防止・安全対策委員会(11日)
	3月	ひな祭り週間（～3日） ボランティア懇談会(延期)	感染症対策委員会(10日) 身体拘束廃止委員会（10日） 給食会議（4日）

＜毎月開催の会議・訓練等＞

実務者会議（第2火曜日）、栄養ケア会議（第2火曜日）、リハビリ会議（第2火曜日）、
ケース会議（第3水曜日）、ケアワーカーミーティング(第2火曜日)、防災訓練（第2水曜日）
広報紙『さんじゅ阿佐谷だより』発行5月、1月

＜地域との交流・かわり＞

6月9日：阿佐谷教会来訪／7月3日：世尊院幼稚園の園児の訪問／9月7日：杉並第一小学校震災救援所訓練／10月7日：阿佐谷北1丁目町会参加／10月19日：さんじゅ阿佐谷施設見学会、試食会／
11月17日：阿佐谷教会来訪／11月22日：杉並第一小学校小学二年生課外授業「あさがやたんけん」
4月～10月：第二水曜日 近隣保育園のポピンズナーサリースクール園児の訪問

特別養護老人ホーム さんじゅ久我山

【重点事項の総括】

(文責：施設長 大久保憲和)

本年度は、平成から令和へ時代の変化と東京オリンピックへの期待感があるなか、施設運営では明るい未来へ向けて、より良いサービス提供のための設備更新や資質向上、働きやすい職場環境づくりといった事業計画を着実に遂行していきました。年明けからは新型コロナウイルスの影響によりご家族等の面会禁止措置や行事・会議等を縮小・中止するなど感染防止に最大限の注意を払ったため計画履行に一部支障が生じました。感染症という新たな問題に直面しておりますが、さんじゅ久我山はこの危機を全員で乗り越えようとするパワーがあるので、これからの施設運営をする上でとても頼もしく期待しています。

さんじゅ久我山が重点目標として掲げた項目、計画に関する実施状況は以下の通りです。

1. 利用者サービスの付加価値の向上

- ①ご入居の際は施設長はじめ各職種が集まり、歓迎のあいさつを行った。安心して生活していただくため、利用者担当が中心となり、細かく観察・記録し、ケアを行い、今後の生活につなげていくことができた。また、終末期における対応としては、主治医の意見をもとに、ご家族と密に連絡を取りながら、苦痛なく過ごしていただけるよう多職種で対応を行った。お見送りの際はご家族の気持ちを尊重した対応を行うとともに、可能な範囲で利用者・職員でお見送りができるように配慮した。
- ②人員不足の中、シフト調整や介護補助職員の協力を得て、行事は年 12 回（前年度 9 回）、クラブ活動年 7 回（前年度 1 回）を実施することができた。来年度も同様の形で行えば、さらにデイ活動の充実に重点を置くことができる。

2. 地域連携の強化

- ①地域向けに、コンサートイベントを年 2 回、他に家族会主催の敬老会、地域のケアマネージャーを対象とした試食会、地域自治会との合同防災訓練を行うことができた。
- ②ボランティアは、毎月 1 回ご入居者様と一緒に折り紙の作品を作っていたほか、クッションづくりも実施することができた。
- ③ケア 24 や地域との連携の中で、地域懇談会「知り・会いませんか私のまちのこんな活動」と、ゆうゆう久我山館で開催した地域の介護福祉業者「いきいきフェア」へ参加。また高井戸第 2 小学校で行った認知症サポーター養成講座や高齢者体験等に職員を派遣して講座を行った。
- ④家族会は敬老会での行事の開催、食堂前の花壇の手入れ、施設周りの清掃などを行ってくださった。また家族会の話し合いにも参加させていただき、施設の状況などもその都度説明することができた。

3. サービスや職場環境の“付加価値”を高めるための施設・設備・備品の改善・更新

- ①ナースコール、眠りスキャンと見守りカメラ、多機能ベッドについて、12 月に更新・導入完了した。これら機器の活用により夜間帯の巡回等については業務軽減ができていますが、更なる業務改善を図っていききたい。
- ②温冷配膳車を導入したことで、夕方と土日昼の体制を 3 名から 2 名へ、夜の洗浄を 2 名から 1 名へ移行することができたため総労働時間が減少した。常勤換算すると約 1 名分少ない人数で運営できるようになった。また適時適温で食事を提供することができるためサービスの質が向上した。そして直営厨房システムの活用により、常勤職員がいなくても食事提供する環境を構築でき、残業の削減につながった。

- ③空調・照明機器の設備改修により夏場の空調機故障の心配がなくなり、ご入居者様の安全が確保されるようになった。設備改修した10月から3月の電気代は9%増加したが、ガス代は47%削減されて省エネすることができた。

4. 根拠（エビデンス）に基づく仕事の再確認

- ①介護福祉士養成校の実習生を受け入れるにあたり、職員向けに「実習生受け入れマニュアル」を作成し、受け入れ前の手続きから実習終了後まで職員が周知しておくべきことをマニュアル化し、閲覧できるように整えた。また実習生向けには「実習マニュアル」を作成し、実習態度や守秘義務について、実習中の注意点などをまとめ、事前に内容を周知してもらうことで、スムーズに実習が進められるようにした。
- ②職員がシフト研修の際に使用する研修連絡票を見直し、現状のシフトの動きに合った内容に作り替え、よりスムーズに研修が行えるようにした。また夜間帯の緊急時マニュアルを見直し、転倒時・誤薬時対応についてフローチャート形式で分かりやすくした。
ノロウイルス対応マニュアルも現在推奨されているものへ内容を変更し、全職員が正しく感染症対応ができるように整備を進めた。
これまで行っていたプリセプター制度は、一新してよりプリセプターとプリセプティーが密に連絡を取り、効率的に研修が進められるように整備した。
- ③業務上の都合で、毎日開催できていないが、決まった時間にミーティングを行うという習慣はついた。実際ミーティングの中で問題提起や解決が模索され、さらに発信して情報共有につながることも行われている。現状では主に常勤職員が議題を持ち寄って話し合うことが多いが、今後は非常勤職員も含め、より気軽に疑問や議題を持ち寄れる場として機能させていきたい。
- ④認知症介護のスキルアップでは、オレンジミーティングの取組について現場で情報共有されていなかった。そのため認知症の知識やケアについてロールプレイを使った法人内研修や啓発ポスターの作成、「認知症ケア」のポイントの掲示を行った。2020年度はさらにレベルアップした全体研修になるよう検討したい。

5. 働きやすさ、働き甲斐のある職場づくり

- ①常勤職員の有給休暇の取得率は37.4%と前年度（23.8%）より上昇した。
- ②リフレッシュ休暇（3連休以上の休日）は、中途入職者を除き常勤介護職員全員が延73回取得し、十分英気を養って仕事にあたることができた。
- ③十分休みをとって仕事にあたるためには人員体制の強化が必要となってくるが、社会的に人員不足なので、業務改善を行って生産性を高めていく必要がある。

【行事・会議等開催状況】

時 期		施設行事 (利用者に関するもの)		内部行事（職員主体） 《会議・研修・訓練等》
平成 31年 ／ 令和 元年	4 月	お花見コンサート（6日）		入所検討委員会・感染症勉強会
	5 月	身体拘束廃止委員会・家族会総会		
	6 月	映画会（23日）		入所検討委員会・褥瘡対策委員会・防災訓練
	7 月	ボランティア演芸会（20日）・俳画（26日）	梅ジュース作り（14日）	感染症対策委員会
	8 月	赤ちゃん先生・七夕コンサート（7日）	ケアマネ試食会（18日）・不在者投票（19日）	入所検討委員会・安全委員会・身体拘束廃止委員会・入所検討委員会
	9 月	納涼祭（22日）	ところてん作り（10日）	入所検討委員会・パルロデモ・防災訓練
	10 月	敬老会（17日）・書道クラブ（25日）		入所検討委員会・感染症対策委員会・スマート会議・救命救急講習
	11 月	敬老会（5日）・運動会（29日）		入所検討委員会・身体拘束廃止委員会・感染症勉強会・合同防災訓練
	12 月	焼き芋会（18日）・秋のコンサート（23日）		入所検討委員会・褥瘡対策委員会・スマート会議
令和 2年	1 月	お祝い膳（1日）・新年会（7日）	絵画クラブ（23日）	入所検討委員会・安全委員会・身体拘束廃止委員会
	2 月	節分会（3日）		入所検討委員会・感染症対策委員会・スマート会議
	3 月	ひな祭り会（3日）		

定例会議：実務者会議（第2水曜日）、相談員ミーティング（第2水曜日：7月～）、給食会議（第3水曜日）、リハビリ会議（第3水曜日：1月～）、ケース会議（第4、5水曜日）

定例活動：フラワーアレンジメント（隔月）、折り紙（第3月曜日）、ホーム喫茶（最終土曜）

居宅介護支援事業所 さんじゅ久我山

【重点事項の総括】

(文責：主任介護支援専門員 星 智子)

1. エビデンス(根拠)に基づく仕事の再確認

①ケアマネジメントにおけるアセスメント強化のため、「ケアマネジメントの標準化」の研究会に参加した。ケアマネジメントの課題であるエビデンス、一定の判断基準に基づくケアマネジメントを行うために「ケアマネジメントの標準化」の研究がなされている。得た知識や情報を随時、もしくは月中旬開催の居宅会議にて共有した。

2. サービスの「付加価値」を高めるための準備

①ケアマネジメントにおけるA Iの活用準備として、その基本となる「ケアマネジメントの標準化」の研究会に参加した。疾病に特化した「ケアマネジメントの標準化」の研究会において、知識の共有化、平準化が必要との事。介護支援専門員に対し、情報共有を行った。
②今後の課題として、計画的な研修が必要である。

3. 「不適切な」相談援助や接遇をなくす

①スーパービジョン研修へ参加し、介護支援専門員としての能力向上させるためのスーパービジョンの知識を取得した。今後、日常の支援の振り返り機能として役立てたい。
②利用者アンケートによる接遇の見直し・サービスの質の向上は、今後の課題としたい。
③育成、指導マニュアルの作成の完成を次年度で目指したい。

4. 組織力の強化

①有給休暇取得は、計画性を持って取得できるようになるとさらに良い。
②安定した業務体制を築く事で残業の減少を目指したい。

【日常業務報告】

時期		業 務 状 況 (件)			さんじゅ久我山 利用紹介 (件)		初 回	会 議 ・ 研 修 等
		居宅介護 支援	予防 支援	認定調査 委託	特養	ショート ステイ		
平成 31年 ／ 令和 元年	4 月	41	13	5	0	1	0	ケアマネ協議会、法令遵守研修、新任ケアマネ研修打ち合わせ、ケアマネ勉強会、実践塾、合同勉強会、オレンジミーティング、新任ケアマネ研修講師、ケアマネ協議会総会、実務者会議、居宅会議
	5 月	41	13	5	0	2	2	ケアマネ協議会、三者面談、リスクマネジメント委員会、スキルアップ研修、法令遵守研修、ケアマネ勉強会、エクレンシア見学会、移動タクシー研修、浴風会地域ケアマネとの交流会、実務者会議、居宅会議

	6月	44	15	11	0	3	4	ケアマネ協議会、内部研修、ケアマネ勉強会、ろうけんくがやま報告会、実践塾、オレンジミーティング、自転車安全セミナー、内部研修、精神訪問看護研修、実務者会議、居宅会議
	7月	43	16	11	0	2	1	ケアマネ協議会、ファシリテーター研修、定期巡回セミナー、実地指導報告研修会、歯科医師会研修、ケアマネ連絡会、訪問リハビリ研修、在宅医療地域ケア会議、事例研究・研修、ケアマネジメンツの質の向上、実務者会議、居宅会議
	8月	43	18	12	0	2	1	RST打ち合わせ、自転車推進者打ち合わせ、ケアマネスキルアップ研修、ケアマネ連絡会、オレンジミーティング、合同勉強会、山河内覧会、RST打ち合わせ、ケアマネカフェ、主任ケアマネ研修会、実務者会議、居宅会議
	9月	40	18	13	0	2	0	ケアマネ協議会、家族へのケアマネジメンツ、明日会、リスクマネジメンツ委員会、実践塾、みんなで作ろうケアプラン研修、アクティブ福祉、実務者会議、居宅会議
	10月	40	18	14	0	4	1	監督職全体研修、ファシリテーター研修、調査員研修、実践塾、オレンジミーティング、合同勉強会、第1回事例検討会、高井戸地域ケア会議、実務者会議、居宅会議
	11月	40	18	3	0	3	1	ケアマネ協議会、内部研修、主任ケアマネ研修、リスクマネジメンツ委員会、すぎなみガイドライン研修、実践塾、スキルアップ研修、ケアマネ勉強会、合同勉強会、スーパービジョン研修、実務者会議、居宅会議
	12月	40	18	4	0	3	2	ケアマネ協議会、明日会、防災訓練、ケアマネ勉強会、第2回事例検討会、実践塾、スーパービジョン研修、実務者会議、居宅会議
令和2年	1月	36	15	5	0	3	1	ケアマネ協議会、リスクマネジメンツ委員会、専門Ⅱ研修、ガイドライン研修、自立支援重度化防止研修、在宅医療介護連携連絡会、成年後見利用促進委員会、実務者会議、居宅会議
	2月	32	14	10	1	2	1	ケアマネ協議会、RST打ち合わせ、高井戸地域ケア会議、久我山連絡会、実践塾、専門研修Ⅱ、実務者会議、居宅会議
	3月	34	13	8	0	0	4	ケアマネ協議会（ミニ）、リスクマネジメンツ委員会、合同勉強会、実務者会議、居宅会議

杉並区地域包括支援センター ケア 24 久我山

【重点事項の総括】

(文責：センター長 建神智美)

今年度は、職員のスキルアップや、集いの場や活動の場を増やす地域づくりに重点を置いた。職員の病気による長期休職、退職、新入職員が定着できないといった問題がある中、少ない人数の職員で業務を滞りなく遂行できた。

1. 専門職としてのスキルを向上する

- ①ケアマネ連絡会で「ケースワークの原則」について学び、内部でも共有できた。
- ②職員が少ない中でも、内部では学習会にて伝達研修、外部研修にも積極的に参加した。
- ③それぞれ担当した事業を責任持って行う事ができた。ミーティング等でも専門職として意見を述べ、全員が積極的に参加し、スキルが向上できた。

2. ひとりひとりが包括業務全体を理解できる

- ①センター長と主任ケアマネで、委託業務について一連の確認作業を行った。
- ②それぞれが事業等で新たな役割を持ち、業務を遂行する中で理解していった。

3. 地域の方の集いの場、活動の場が増える

- ①推進員を中心に継続ができ、フィードバックも書面で丁寧に行うことができた。
- ②久我山1丁目部会は定期的開催。昨年に続き、浴風会病院とのコラボ企画を計画していたが、新型コロナウイルスの影響で中止となった。集いの場の立ち上げには至らなかったが、住民がつながる事への意識づけは出来たと感じる。
- ③つなぐ会で「介護フェア」を計画、実施できた。
- ④メリーゴーランド、さくらカフェを再構築するための検討を行った。前述したが久我山1丁目に対しての場づくりの取組を行った。

【日常業務報告】

相談総件数					給付管理総件数			予防ケアマネジメント総件数		
	新規	電話	訪問	他		自前	委託		自前	委託
4669	305	2560	958	764	1355	408	947	1142	438	704

※虐待新規対応件数…10件

【ケア 24 による会議体】

平成 31 年 ／ 令和 元年	4 月	支援会議（ウェルファーム）（9）／事業説明会①（15）、②（16）／在宅医療地域ケア会議全体会（16）／在宅医療運営推進会議（18）／初期集中支援チーム員会議（24）
	5 月	認知症対策実務者会議（10）推進員連絡会（21）
	6 月	西宮中震災救援所連絡会（8）／評価部会（12）／初期集中支援チーム員会議（26）たすけあい事業連絡会（26）
	7 月	介護者の会連絡会（3）／エリア会議（5）成年後見制度利用協議会（19）認知症実務者会議（23）／初期集中支援チーム員会議（24）在宅医療地域ケア会議（24）入所判定委員会（25）虐待防止関係機関連絡会（29）チームオレンジ説明会（29）
	8 月	在宅医療運営推進会議（12）たすけあい事業連絡会（23）／初期集中支援チーム員会議（28）／受託法人連絡会（30）／西宮中震災救援所（24）
	9 月	在宅医療運営推進会議（12）初期集中支援チーム員会議（25）
	10 月	物忘れ相談（10）／在宅医療地域ケア会議（23）／生活支援体制整備連絡協議会（24）／たすけあい合同連絡会（30）／初期集中支援報告会（30）
	11 月	入所判定委員会（19）在宅医療運営推進会議（21）セントケア運営推進会議（29）
	12 月	ネットワーク連絡会（11）／物忘れ相談（26）
令和 2 年	1 月	入所判定委員会（23）／セントケア運営推進会議（24）
	2 月	在宅医療地域ケア会議（5）杉並区地域ケア推進会議（21）／ネットワーク連絡会（26）
	3 月	法人説明会（23）／地域ケア会議（23）
法人外 定例		センター長（連絡）会／ブロック会議（第 3 木曜日）／たすけあいネットワーク地域連絡会（第 4 月曜日）／介護予防ケアマネジメント支援会議（第 2 木曜日）／地域包括ケア推進員連絡会／宮前地区民生委員協議会（第 3 木曜日）／グループホーム運営推進会議（第 4 土曜日）／コアメンバー会議（水曜 AM）／RST（隔月）

【ケア 24 行事】

平成 31 年 ／ 令和 元年	4 月	おたのしみ会（10） 1 丁目部会（23）／地域ケア会議 1（23）地域ケア会議 2（26）
	5 月	ひとり暮らし部会（15）／RUN 伴打ち合わせ（23）／いきいきはつらつ講座（28）
	6 月	ミニ懇談会（5） 家族介護教室（10）／RUN 伴打ち合わせ（24）／4 丁目アパート栄養講座（24）／いきいきはつらつ講座（25）／まち歩き声掛け訓練打ち合わせ（27）
	7 月	地域ケア会議 3（3）／／認サポ：久我山小学校（18）／いきいきはつらつ講座（23）いきいきはつらつ講座（23）／いきいきはつらつ講座（23）／地域ケア会議 4（31）
	8 月	認サポ：セコム（19）
	9 月	久我山つなぐ会全体会（2） 家族介護教室（3）／ミニ懇談会（4）／広報部会（12）／RUN 伴（14）／いきいきはつらつ講座（24）
令和 2 年	10 月	認サポ：高井戸第二小学校（11） 介護フェア部会（15）／声掛け訓練振り返り（21）／いきいきはつらつ講座（22）
	11 月	くるみの会（1）／むくげの会（25）／いきいきはつらつ講座（26）／認サポ：かえで園（28）／介護フェア（30）
	12 月	家族介護教室（3）／ミニ懇談会（4）／認サポ：モンテッソーリ久我山（16）
令和 2 年	1 月	おたのしみ会新年会（15）／認サポ：富士見ヶ丘中学校（18）／いきいきはつらつ講座（28）
	2 月	1 丁目部会（14）／西自治会新年会（17）
	3 月	
定例		火よう会（第 1 火曜日）／爽やかウォーキング（第 1 水曜日）／さくらカフェ（第 1 金曜日）／かけひサロン（第 2, 4 木曜日）／メリーゴーランド（第 3 金曜日）／さくらの会（第 4 木曜日）／ケアマネ連絡会・勉強会（第 3 月曜）／折り紙

各種データ報告

【特別養護老人ホームの利用状況】※特養の利用率%の下の()内の数字は新規入所・退所

		さんじゅ阿佐谷		さんじゅ久我山	
		特 養 (定員 45)	ショートステイ (定員 5)	特 養 (定員 50)	ショートステイ (定員 6)
平成 31年 ／ 令和 元年	4月	95.3% 新規入所・退所 (0・1)	94.7%	95.7% 新規入所・退所 (0・1)	41.1%
	5月	89.7% (0・0)	127.1%	97.0% (1・1)	40.3%
	6月	85.1% (0・2)	128.7%	98% (2・0)	50%
	7月	89.4% (1・2)	136.1%	97.2% (0・0)	48.9%
	8月	89.2% (3・0)	132.9%	95% (0・1)	75.8%
	9月	90.1% (1・3)	102.0%	94.8% (2・2)	59.4%
	10月	88.2% (1・1)	106.5%	94.2% (1・1)	65.1%
	11月	90.0% (2・1)	76.0%	93.7% (1・0)	62.8%
	12月	94.3% (0・1)	95.5%	96.1% (1・1)	70.4%
令和 2年	1月	93.5% (1・0)	95.5%	97.1% (1・2)	80.1%
	2月	90.2% (1・1)	102.1%	98.5% (2・0)	81.6%
	3月	92.0% (1・1)	95.5%	98.6% (1・1)	61.8%
年間平均		90.6%	107.8%	96.3%	61.4%
新規入所・退所合計 (11・13)				新規入所・退所合計 (12・10)	
特養＋SS 合計 92.3%				特養＋SS 合計 92.6%	

【特別養護老人ホーム 面会者数】

面会者数 (家族・友人・ その他を含む)	さんじゅ阿佐谷	さんじゅ久我山
	3,274 名	2,648 名

【特別養護老人ホーム 在籍利用者の状況】

※令和2年3月31日現在

施 設 名	さんじゅ阿佐谷	さんじゅ久我山
男 女 比	男性 4 名：女性 39 名	男性 5 名：女性 45 名
要介護度	平均要介護度 3.96 要介護 1 3 名 要介護 2 0 名 要介護 3 8 名 要介護 4 19 名 要介護 5 13 名	平均要介護度 3.98 要介護 1 1 名 要介護 2 3 名 要介護 3 8 名 要介護 4 21 名 要介護 5 17 名
在籍年数	平均在籍年数 3.5 年 (最長 15 年)	平均在籍年数 2.4 年 (最長 16 年)
年齢層	平均年齢 88.8 歳 最高齢 100 歳 60 歳代 0 名 70 歳代 4 名 80 歳代 19 名 90 歳代 17 名 100 歳代 3 名	平均年齢 89.08 最高齢 104 歳 60 歳代 0 名 70 歳代 5 名 80 歳代 21 名 90 歳代 22 名 100 歳代 2 名

【ヒヤリハット・事故事例および件数】

さんじゅ阿佐谷

	事 例	件 数
事故	転倒・尻もち・転落	42
	誤薬・配薬ミス、与薬忘れなど	24
	入浴・排泄介助中の事故	18
	盗食・異食	17
	移動時の事故	6
	爪切り、髭剃りミス	3
	補食忘れ、禁止食材提供、食形態誤提供	3
	対物	3
	対人トラブル	3
	着衣交換・洗面介助時の受傷	1
	その他	4
	事 故 合 計	124
ヒヤリハット	転倒未遂、ベッドから立ち上がりなど	98
	エレベーターロック外し、単独エレベーター乗り込みなど	64
	異食・盗食・異なる食形態間の交換など	64
	ベッドサイドレール外し、ベッドからのずり落ち未遂、センサー感知などで端座位など	61
	車椅子やトイレからのずり落ち・立ち上がり、転落未遂	52
	義歯紛失未遂など	51
	与薬忘れ未遂、セッティングミス、便秘カウントミスなど	38
	単独トイレ、移乗未遂など	24
	離設未遂	22
	徘徊センサー外し・装着忘れなど	20
	車椅子ブレーキかけ忘れ、車椅子自操し居室離床センサー感知	13
	他利用者が介助しようとする、介助を受けるなど	12
	対人トラブル	6
	その他	40
	ヒヤリハット 合計	565

さんじゅ久我山

	事 例	
事故	薬（落薬、服薬漏れ、誤薬、排便カウントミス）	41
	傷（発見、介助ミスによる受傷、爪切り失敗、爪剥がれ）	3
	転倒、転落	30
	誤食	1
	便秘対応ミス	6
	事 故 合 計	81
ヒヤリハット	一人で移動した、転倒しそうになった、立ち上がろうとしていた	70
	単独トイレ	25
	利用者同士での移動等	15
	誤食、盗食、配膳配茶ミス、食事量カウントミス	12
	表皮剥離	11
	利用者自身でのサポーターの着脱、紛失未遂	6
	離床センサーの設定ミス	4
	義歯が行方不明未遂	3
	他の利用者へ利用者が食べさせようとしていた。	3
	飲み物の容器を落とし、体の一部に飲み物がかかってしまった	3
	車いすのロックのかけ忘れ、車椅子の自走	4
	利用者同士のトラブル、利用者の暴力行為	5
	ベッド、ベッド柵にぶつける	4
	賞味期限切のおやつ、食べ残しの食糧の発見	3
	ベッド柵が逆についていた、付け忘れ、ベッドの設定ミス	3
	薬の仕訳ミス	2
	湿布を自分ではがしてしまう	2
	フロア職員が気づかずに家族で外出、事務所への移動	2
	補聴器外し忘れ	2
	1人でベッドに端座位	2
	その他	6
	ヒヤリハット 合 計	187

【実習生・ボランティア等との関わり】

	さんじゅ阿佐谷	さんじゅ久我山
実習生等 受け入れ ※学校名、人数、 期間等	《介護福祉士養成課程実習》 8/13～9/16 日本福祉教育専門学校 実習Ⅲ段階 1名（女性） 《近隣小学校課外授業》 杉並第一小学校2年生 11月22日（6名） 《東京都職場体験事業》 7月27日（1名）	《管理栄養士臨地実習》 駒沢女子大学 5月（2名） 《施設見学と交流》 杉並総合高校 2月（学生5名+引率教諭1）
ボランティア 受け入れ ※団体名、内容、 人数期間・日数等	《通年》 年間延べ 433団体・個人1,120名 ・おしぼりづくり 「阿佐ヶ谷地域の敬老会」 さざんかクラブ、阿佐谷北連合、 寿楽会、第二寿楽会、喜楽会、福 寿会、長寿会、第二長寿会 ・喫茶コーナー運営 さざんかクラブ ・料理クラブ運営 東京第3友の会 ・クラブ活動・デイ活動補助・おしぼ りづくり グループあさがや ・屋上庭園整備 植木応援団 《個人登録》 ・書道クラブ講師 1名 ・おしぼりづくり 3名 ・裁縫等 1名、傾聴 1名 ・卓上ゲームなど 1名 《行事ボランティア》 納涼祭 1名 《慰問》 誕生日会 ポピンズナーサリースク ール園児 約12名／4～11月	・おしぼり、清拭作り 年間延べ 248名 ・俳画クラブ（6/26、12/17） ・折り紙 47名 （原則毎月第2火曜日） ・クッション作り 72名 （毎月第2月曜日） ・傾聴ボランティア（毎週水曜日） ・保育園児訪問 随時 （野のはな空のとり保育園）

【生活支援事業 サポートさんじゅ】

高齢者見守り配食サービス

年間稼働日	311	合計食数	2,969
-------	-----	------	-------

福祉有償運送事業

年間運送回数	1,463	利用登録者数	124
		運転協力員	19

【職員勤務状況】

法人全体 3月31日現在 常勤62名、非常勤72名

本部(役員除く)

	新入職		退 職		3月31日現在数	
	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤
本部長	0名	0名	0名	0名	1名	0名
事務員	0名	0名	0名	0名	5名	3名
計	0名	0名	0名	0名	6名	3名
平均年齢					48.5歳	54歳
平均在職年数					7年	3年

特別養護老人ホーム さんじゅ阿佐谷(医師除く)

	新入職		退 職		3月31日現在数	
	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤
施設長	0名	0名	0名	0名	1名	0名
生活相談員	0名	0名	0名	0名	1名	0名
介護職員	0名	2名	1名	0名	15名	10名
看護職員	2名	0名	1名	0名	2名	2名
管理栄養士	0名	0名	0名	0名	1名	0名
栄養士	0名	0名	0名	0名	1名	0名
機能訓練指導員	0名	0名	0名	0名	1名	0名
介護支援専門員	0名	0名	0名	0名	1名	0名
調理員	0名	3名	0名	3名	2名	11名
事務員	0名	0名	0名	0名	0名	0名
補助・洗濯・清掃	0名	6名	0名	4名	0名	14名
配食	0名	1名	0名	0名	0名	3名
計	2名	12名	2名	7名	25名	40名
平均年齢					39.6歳	60歳
平均在職年数					7.8年	7年

特別養護老人ホーム さんじゅ久我山(医師除く)

	新入職		退 職		3月31日現在数	
	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤
施設長	0名	0名	0名	0名	1名	0名
副施設長兼生活相談員	0名	0名	0名	0名	1名	0名
生活相談員	0名	0名	1名	0名	0名	0名
介護職員	2名	2名	2名	3名	16名	14名
看護職員	0名	1名	0名	0名	2名	2名

管理栄養士	0 名	0 名	0 名	0 名	1 名	0 名
調理員（栄養士含）	0 名	3 名	0 名	4 名	2 名	6 名
機能訓練指導員	0 名	0 名	0 名	0 名	1 名	0 名
介護支援専門員	0 名	0 名	0 名	0 名	1 名	0 名
事務員	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名	1 名
補助・洗濯・清掃	0 名	1 名	0 名	1 名	0 名	10 名
計	2 名	7 名	3 名	8 名	25 名	33 名
平均年齢					44 歳	58 歳
平均在職年数					9.7 年	7.3 年

居宅介護支援事業所 さんじゅ久我山

	新入職		退 職		3 月 31 現在数	
	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤
介護支援専門員	0 名	1 名	1 名	0 名	1 名	1 名
計	0 名	1 名	1 名	0 名	1 名	1 名
平均年齢					43 歳	62 歳
平均在職年数					2.6 年	0 年

地域包括支援センター ケア 24 久我山

	新入職		退 職		3 月 31 現在数	
	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤
主任介護支援専門員	0 名	0 名	0 名	0 名	2 名	0 名
保健師・看護師	0 名	0 名	1 名	0 名	1 名	0 名
社会福祉士	1 名	0 名	2 名	0 名	2 名	0 名
介護支援専門員	1 名	0 名	0 名	0 名	1 名	0 名
事務員他	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名	1 名
計	2 名	0 名	3 名	0 名	6 名	1 名
平均年齢					51 歳	65 歳
平均在職年数					6.9 年	9.9 年

【研修参加状況】

No.	所属	職種	研修名	日時
1	居宅	主任介護支援専門員	ケアマネスキルアップ研修① ケアマネージャーに必要な相談援助の技術	5/11
2	久我山	介護支援専門員	ケアマネスキルアップ研修① ケアマネージャーに必要な相談援助の技術	5/11
3	ケア 24	介護支援専門員	ケアマネ協議会 2019 年度 法令順守	5/15
4	久我山	看護師	クレーム対応の手掛かりと実際—パーソナリティに偏りがある人を理解する	5/16
5	久我山	看護師	高齢者の心身の理解とアセスメント	5/17
6	久我山	看護師	院内感染対策セミナー	5/18
7	ケア 24	社会福祉士	市区町村職員等高齢者権利擁護研修 擁護者による高齢者虐待対応研修	5/15.21.22
8	久我山	機能訓練指導員	認知症のある方の評価と機能訓練の展開～声かけから機能訓練まで～	5/24
9	ケア 24	看護師	第 20 回 日本認知症ケア学会大会	5/25.26
10	本部	事務	社会福祉法人制度改革事務担当者フォローアップセミナー	4/19
11	阿佐谷	介護	仕事としての老人ケアの気合～介護職員の理念とは～	6/4
12	本部	事務	介護報酬請求事務に関する研修会(基礎編)	6/20
13	久我山	施設長	福祉事業所のための研修体系確立・推進研修	6/13・14
14	久我山	介護	東京都認知症介護基礎研修	6/25
15	ケア 24	介護支援専門員	ステップアップコース ファシリテーター養成講座	7/2
16	久我山	介護	施設職員向け福祉用具講習会	7/11
17	久我山	生活相談員	ボランティア受け入れ担当者研修	7/12
18	久我山	管理栄養士	日本在宅栄養管理学会 学術集会	7/13
19	久我山	介護	チームづくりの視点と手法を学ぶー協働できるチームづくりを目指してー	7/16
20	久我山	看護師	アンガーマネジメント～怒りの感情を理解する～	7/22
21	阿佐谷	介護	看取りケアを見直そう～日々のケアから介護職員のできること～	7/26
22	阿佐谷	介護	2019 年度東京都個別ケア研修	7/8
23	久我山	生活相談員	ボランティアマネジメントの基本を学ぶ	7/26
24	久我山	施設長	令和元年度 労働基準法等に関する研修	8/9
25	久我山	施設長	施設長のための財務マネジメント初級課程	8/19
26	ケア 24	介護支援専門員	令和元年度ケアマネジメントの質の向上研修会	8/19
27	久我山	介護支援専門員	令和元年度ケアマネジメントの質の向上研修会	8/19
28	久我山	生活相談員	ショートステイのリスクマネジメント研修会	8/20
29	久我山	機能訓練指導員	褥瘡の予防と対策	9/10
30	阿佐谷	機能訓練指導員	ご家族でも出来る～自宅でも出来る言語訓練・嚥下訓練～	8/21
31	久我山	施設長	新任施設長研修	9/17
32	久我山	介護	”口を開けない”認知症の方の食支援アプローチ	9/16
33	阿佐谷	介護	正しい姿勢で痛みを緩和する方法	9/18
34	阿佐谷	介護	パーソンセンタードケア ワークショップ 2019	9/28
35	久我山	施設長	アクティブ福祉 inTOKYO 2019	9/30
36	久我山	介護支援専門員	アクティブ福祉 inTOKYO 2019	9/30
37	久我山	機能訓練指導員	アクティブ福祉 inTOKYO 2019	9/30
38	ケア 24	介護支援専門員	第 3 回独自研修(ステップアップコース実践研修)	10/16
39	久我山	看護師	在宅におけるサルコペニアと看護師が行うリハビリテーション栄養	10/17

40	久我山	介護	介護職員スキルアップ研修 医療ニーズを見逃さないケアを学ぶ	10/2～4
41	阿佐谷	介護	ヒヤリハット事例を交えたリスク管理の重要性と 福祉用具を使った安全で質の高いケア	10/10
42	阿佐谷	介護	自転車安全利用 TOKYO セミナー	10/16
43	久我山	介護	福祉職員職務階層別研修 チームリーダー研修	10/28～29
44	久我山	看護師	施設内での集団感染予防対策について	10/31
45	久我山	機能訓練指導員	福祉用具サービス業務従事者講習会「歩行補助具の選び方と使い方」	11/1
46	久我山	施設長	令和元年度 東京都地域公益活動推進委員会 実践発表会	10/2・15
47	久我山	施設長	人事管理研修	11/11
48	久我山	看護師	施設内での集団感染予防対策について	11/12
49	久我山	介護	介護現場で知っておきたい感染症の基礎知識と対応	11/14
50	阿佐谷	介護	さんじゅ久我山見学	11/14
51	久我山	介護支援専門員	ケアマネスキルアップ研修③	11/16
52	居宅	主任ケアマネージャー	ケアマネスキルアップ研修③	11/16
53	ケア 24	看護師	日本認知症ケア学会 関東ブロック大会	11/17
54	久我山	看護師	看取りの看護とグリーフケアの実際	11/20
55	久我山	機能訓練指導員	福祉用具サービス業務従事者講習会「移乗2 リフト」	11/26
56	久我山	介護	あなたの介護を劇的に変えるコツ～身体の負担を軽くする介護(移乗編)	11/26
57	久我山	機能訓練指導員	他職種連携・協働の視点によるプラン作成を考える	11/28
58	久我山	介護	介護事故予防に関する研修	11/19
59	久我山	管理栄養士	高齢者の食環境整備事業(配食事業者を対象とした講習会)	12/12.19
60	阿佐谷	管理栄養士	高齢者の食環境整備事業(配食事業者を対象とした講習会)	12/12.19
61	阿佐谷	介護	高齢者虐待防止研修	12/12
62	久我山	看護師	暮らしの場における看取り支援事業 令和元年度実践編研修	12/25・ 1/24
63	久我山	介護	暮らしの場における看取り支援事業 令和元年度実践編研修	12/25・ 1/24
64	阿佐谷	介護	ケアの質を上げるロボット活用研修会 ～介護ロボットの普及・導入に向けて	1/21
65	久我山	管理栄養士	ケアフード展	2/13
66	阿佐谷	介護	パターン化しない認知症ケアのヒント	11/26

【収支計算書(決算報告書)作成にあたり】

各拠点が作成する計算書類等とサービス区分についての法令根拠等は、以下のとおりです。

本部拠点が作成する計算書類等とサービス区分

当拠点区分において作成する計算書類等は以下のとおりです。

- (1) 法人本部拠点区分計算書類(第1号第4様式、第2号第4様式、第3号第4様式)
- (2) 当拠点区分において、サービス区分は一つであるため「社会福祉法人会計基準の制定に伴う会計処理等に関する運用上の取扱いについて」(平成28年3月31日厚生労働省雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長、老健局長通知、雇児発0331第15号・社援発0331第39号・老発0331第45号、以下「運用上の取扱い通知」という。)25(2)ウの規定に基づき、拠点区分資金収支明細書(別紙3(⑩))の作成は省略している。
- (3) 当拠点区分において、サービス区分は一つであるため「運用上の取扱い通知」25(2)ウの規定に基づき、拠点区分事業活動明細書(別紙3(⑪))の作成は省略している。

さんじゅ阿佐谷拠点が作成する計算書類等とサービス区分

当拠点区分において作成する計算書類等は以下のとおりです。

- (1) さんじゅ阿佐谷拠点区分計算書類(第1号第4様式、第2号第4様式、第3号第4様式)
- (2) 拠点区分事業活動明細書(別紙3(⑪))
 1. 指定介護老人福祉施設
 2. 短期入所生活介護
 3. 見守り配食サービス
 4. 福祉有償運送事業
 5. 多世代交流事業
- (3) 「社会福祉法人会計基準の制定に伴う会計処理等に関する運用上の取扱いについて」(平成28年3月31日厚生労働省雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長、老健局長通知、雇児発0331第15号・社援発0331第39号・老発0331第45号、以下「運用上の取扱い通知」という。)25(2)ウの規定に基づき、拠点区分資金収支明細書(別紙3(⑩))の作成は省略している。

さんじゅ久我山拠点が作成する計算書類等とサービス区分

当拠点区分において作成する計算書類等は以下のとおりです。

- (1) さんじゅ久我山拠点区分計算書類(第1号第4様式、第2号第4様式、第3号第4様式)
- (2) 拠点区分事業活動明細書(別紙3(⑪))
 1. 指定介護老人福祉施設
 2. 短期入所生活介護
 3. 居宅介護支援センター
 4. 地域包括支援センター
 5. 介護予防支援
- (3) 「社会福祉法人会計基準の制定に伴う会計処理等に関する運用上の取扱いについて」(平成28年3月31日厚生労働省雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長、老健局長通知、雇児発0331第15号・社援発0331第39号・老発0331第45号、以下「運用上の取扱い通知」という。)25(2)ウの規定に基づき、拠点区分資金収支明細書(別紙3(⑩))の作成は省略している。